

2017年8月31日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 稲垣 智成様

2017年度私立大学図書館協会海外認定研修(B)報告書

—インフォメーション・コモنز、自動化書庫を中心に—

国際基督教大学図書館
五十嵐孝子

目次

はじめに	1
日程と訪問先	1
ラトガース大学・アレキサンダー図書館	1
コロンビア大学・バトラー図書館	2
コロンビア大学・理工学図書館	3
ロヨラ大学・インフォメーション・コモنز	3
シカゴ大学・マンズエト図書館（自動化書庫）	5
シカゴ大学・レーゲンスタイン図書館	7
終わりに	8
謝辞	9
参考・資料	9

始めに

筆者が奉職する国際基督教大学図書館は、北米大学図書館を参考にして、2000年に Mildred Topp Othmer Library 通称オスマー図書館を新築した。この建物には、地下2階部分に自動化書庫(Automated Storage and Retrieval System 以下 ASRS)を、地上2階にインフォメーション・commons(Information Commons 以下 IC)の機能を装備した。当時の詳しい経緯は『図書館の再出発—ICU 図書館の15年—』ⁱ⁾で確認できる。オスマー図書館のオープンから17年が経過し、その間にライティングサポート・デスク、グループラーニング・エリア等の設置により徐々に変化を見せてきた。就いては、米国における IC またはラーニング・commons (Learning Commons 以下 LC) の現況を観取したく、研修に参加した。

日程と訪問先

参加した研修の名称、テーマ、日程及び訪問先については、「参考・資料」の章に掲載する。本稿では訪問した5大学図書館のICの状況と、1館のASRSを中心に報告する。

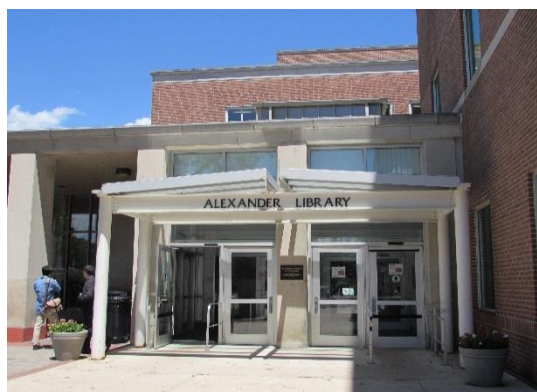
ラトガース大学・アレキサンダー図書館

アレキサンダー図書館は文科系分野の資料を所蔵し、学内への対応のほか Public Research Library としても機能する。

ラトガース大学は、デジタルイニシアチブⁱⁱ⁾に参加し、その一環として様々なデジ

i) 畠山珠美[ほか]著、2007、『図書館の再出発—ICU 図書館の15年—』、岡山：大学教育出版

ii) イノベーションの意識を広げ、アウトリーチと外部パートナーを通じてデジタルリソースの利用を拡大する



[Alexander Library]

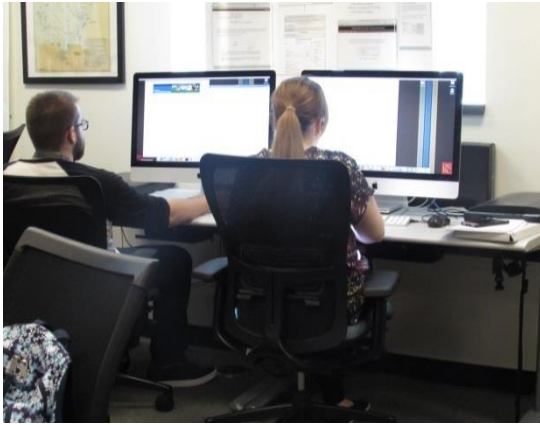
タルプロジェクトに取り組んでいる。中でも図書館と教員が協働し、参加した学生には単位を認定するというプロジェクトは、図書館の新しい取り組みとして注視された。

館内の Digital Curation Research Center では、州のポータル New Jersey Digital Highway を運営し、地図を始め紙媒体の資料のデジタル化、修復本の PDF 化、リポジトリ掲載、オープンデジタルの取込みなどを行っている。それらの作業に使う大型スキャナーを見学した。

閲覧フロアは、絨毯敷きのうえに書架、スタディエリア、パソコンエリアが配置された個人学修のスペースであった。ほかに特別コレクションと大学アーカイブ室などを案内されたが、先駆けになったという LC の現場を見ることはできなかった。



[Study area: 広々とした空間、大きな家具]



[D.C.R.C で州政府のデータをデジタル化]

また、歴史学司書の Tom Glynn さんを通して ILL Office を紹介して頂き、担当者から米国図書館で多く使われている相互利用のシステム ILLiadⁱⁱⁱ⁾についてと、将来これに代わるシステム Tipasa^{iv)}が試行されていることを聞くことができた。

コロンビア大学・バトラー図書館

1934 年開館したバトラー図書館は、人文科学系の資料を所蔵するが、開架式書庫の利用は減少傾向である。一部の資料は共同利用の倉庫^{v)}にあり、CLIO^{vi)} を使って請求すれば 2 日で入手できる。ASRS はない。

雑誌は、ほぼ電子ジャーナルに移行した。図書館の方針としてはデジタルコンテンツの利用を推奨しているが、実際に電子資料を使うのは学外にいる教員や院生で、学内の学生は殆どプリント版を使って授業を受ける。コロンビア大学の伝統的な教育の影響もあるが、デジタルエイジが紙の資料を

iii) ILL 図書館システム：大学・公共図書館で使われる。
 iv) クラウドベースのサービス
 v) プリンストン大学、ニューヨーク公共図書館との共同倉庫 (ReCAP: Research Collections and Preservation Consortium)、コロンビア大学は約 400 万冊を保管。
 vi) オンラインカタログ：Columbia Libraries Information Online

使うという現象には図書館員も驚いている。

LC については、元々多くの学生が集まるスペースが無かった。1994 年のリノベーション時にカフェを設けたものの、清掃管理が行き届かなかったために元に戻した。現在はスターバックスが入っている。



[Butler Library : Reference Room は全米初]



[1200 席の Reading Room : 週 7 日 24 時間オープン。コロンビア大学図書館 20 館の中での利用率第一位]



[デジタル人文センター：一次資料を OCR 機能付きのスキナーでデジタル化し、テキストの検索や解析等が可能]

コロンビア大学・理工学図書館



[Science & Engineering Library:雑誌は E-Journal only]



[Open study area : 移動が可能なキャレル]

理工学図書館は 2011 年に開館し、大学の科学部門と協力し研究と教育に寄与する。学生には、自然光が入る開放的な図書館として人気がある。

50 台の各キャレルには最先端のソフトが搭載されたパソコンと高度な周辺機器が設置され、学生は技術者と専門図書館員^{vii)}によるサポートが受けられる。館内の Digital Science Center には 3D プリンターをはじめ、52 インチの大型ディスプレイを備えたプレゼンテーション実修室、グループ学修スペースがある。研究ラボには卒業後も使えるオンラインの電子掲示版^{viii)}

vii)Face time : 利用時図書館員が学生の前で支援を約束
viii)Electric Lab Note : 研究結果を書き綴る

がある。電子資料の利用については、アクセス権やデータの取り扱い方についての指導も行っている。

このほか、フリースペースでは、ワークショップ、著者の講演、ブックトーク等が開催され、ベンダーによるプロモーションではノベルティグッズを配布することもある。ほかに、ストレス解消用として犬が活用される。

ロヨラ大学・

インフォメーション・コモンズ

RICHARD J. KLARCHEK IC は独立した建物として 2008 年に地上 3 階建てで新設された。建物は自然エネルギーの利用と、デジタル時代の仕様に設計され、共同学修とウェブベースの研究の為にスペースとして提供する。具体的には貸出しを含む各種デジタル機器の設備、大小グループ学修室、セミナールーム、会議室などがある。

ほかに PC の設定からウイルス対策までの幅広いテクニカル・サポート、ライティング・スキル向上のためのセンター、統計調査のアドバイスなども行っている。



[RICHARD J. KLARCHEK Information Commons:
デザインのモチーフはブックエンド]



[Cudahy Library 遠望：訪問時は改修により閉館中]

週 5 日 24 時間オープンし、紙媒体の資料を所蔵するカダヒー図書館に隣接する。IC に対する学生の満足度は高く、オープン後のデータ上でも来館者数の増加がみられた。

Paul Voelker 館長から、図書館は知と創造の追及をビジョンとし、コレクションを通して利用者を優先的に考えることや図書館が情報と学術界の入口になることなどを目標にしている旨お聞きした。具体的には、特定分野のコレクションを強化する、オープンアクセス化のために出版と著作権について学内を牽引する、学術プログラムの支援をする、Alma/Primo^{ix)} のシステムの導入についてなどを揚げ、現在は家具とシステムのアップデートに取り組んでいるとのことであった。

我々の質問に対しては、図書館は当初学生がグループ学修を好むと想定したが多くの学生は静かな場所を望んだ、情報リテラシーの授業に受講単位認定（新生には必須科目に）のシステムを導入し出席率を上げた、教員に E-Book を教材に使うよう推奨して利用率を伸ばした、PDA^{x)}は出版社からのアクセス制限や利用期間の短縮（短

ix)Ex Libris 社の次世代型図書館業務管理システム
x)PDA(Patron-Driven Acquisitions)「利用者主導型購入方式」、電子書籍の購入方法

期ローンの値上げ) があり縮小した、次世代 IC の課題としては共同学修室と個人学修室のスペース確保の問題がある、などと回答した。



[Library instruction lab:学生どうしの接触を多くして教育効果を上げる為、机の並び方を一方向から向かい合わせの並列にした。図書館員は、週に 2~3 回ワークショップを行い、クラスへも出向く。レクチャーの様子を録画して学内に配信]



[デジタルメディアラボの貸出し機器の一部]



[Orientation の風景]



[屋上にある会議室兼レセプションルーム：テラスからは広大なミシガン湖が見渡せる]



[Mansueto Library 外観：際立った屋根のデザインは、シカゴの冬場の気候を考慮したかと思われる]



[GILMUR' S connections café のメニューには sushi の文字も。オープン：月-木 7:00a.m.-1:00a.m.]



[Grand Reading Room : Quiet zoon。時にはヘッドホンをつけ、各自好きな音楽に合わせて踊るパーティ（サイレントディスコ）会場に]

シカゴ大学・マンズエト図書館

2011年にオープンしたマンズエト図書館は、巨大な楕円形のドーム型をしており、総工費8000万ドルのうち2500万ドルを卒業生の Joe & Rika Mansueto 夫妻が、出資した。学期中は毎日 8:00-24:00 に開館する。

地上1階は、電源、ネットワークコンセント等が設置された180の座席を有するグランドリーディング・ルームである。

ドーム状の天井は紫外線・赤外線をカットする3層の平面特殊ガラスパネル691枚からなる。天上の最高位は10.7m、フロアの長さは73m、幅36.6mである。床から突き出た数本の円筒は空調で、室内を快適な環境に保ち、学期中はほぼ満席となる。



[1枚のガラスパネルの大きさは約2x2m、平面状のものを曲線の枠にはめ込んだ。春先、積もった雪が解けて滑り落ちる時には大音響が]

採光量の調節が可能な為、同じフロアにプリザベーション^{xi)}部門がある。

xi) Preservation : 保存、維持、修復

地下 16.7m には 350 万冊収容可能な全米最大級の自動化書庫 ASRS がある。蔵書は、資料の大きさを基準に別けられ、一つのコンテナに 100 冊の本が収納される。2 万 4000 箱のコンテナが、1200 の棚に収められている。

利用者はオンラインカタログを利用してどこからでも出庫指示を出すことができる。利用したい資料を請求するとマンズェト図書館に情報が送られ、請求された本の入っているコンテナを 12 列の金属製書架の中から探し、高さ 15m のクレーンロボット 5 本がそれぞれ地上階へ運ぶ。



【受渡カウンター横の返却ボックス】



【スターウォーズのキャラクターの名前がついているクレーンロボット】



【大型本の取り出し台：操作の責任者は学位を持つ倉庫管理の専門家】

地上の図書館員がコンテナを開けて請求のあった本を探し、資料のバーコードをスキャンすると、申込み者の元に「利用可能」のメールが自動送信される。出庫にかかる時間は平均 3 分である。

ASRS はスペシャルコレクションと共同利用されるが、大型本や貴重書などはコンテナとは別に平置き保存のための棚があり、棚ごと出し入れを行う。

資料の返却は、元のコンテナ^{xii)}内の同じ区画に戻さなければならない。そのため間違えると全コンテナをチェックすることになる。今までに入庫ミスが 3 回ほどあったが、インベントリー^{xiii)}を兼ねて院生のアルバイトが作業を行ったとのことだった。



【1 台に 100 冊入るコンテナ】

xii) 固定ロケーション (cf. フリーロケーション)

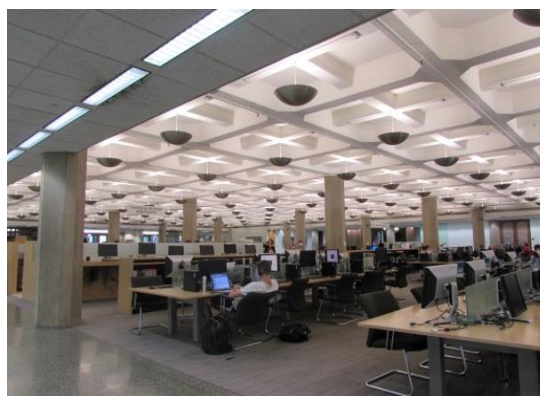
xiii) 蔵書点検

倉庫内は温度 15.5℃、湿度 30%に保たれ、消火設備はスプリンクラーである。月に 5 回程の頻度で技術者が書庫内に入って微調整を行っている。

シカゴ大学・レーゲンスタイン図書館

中央図書館であるレーゲンスタイン図書館は、1970年に地上5階、地下2階で建設され、社会科学、人文科学関係の資料を所蔵する。各階、専門分野別の書架となっており、閲覧席数約2900の内、1/3強はキャレル席となっている。開館時間は、土曜日を除く8:00-24:00である。

院生がサポートする[TECHB@R]のコーナーは、PC、スマートフォンなどデジタル機器の操作について相談できるワンストップサービスで、教職員や学生によく利用されているという。



[館内：PCエリア]



[サイン：ゾーンは Quiet、Collaborative、Cell phone、Meal]



[Regenstein Library 入口、Mansueto Library の入口でもある]



[TECHB@R のカウンター]



[よく見かける標語：ASK A LIBRARIAN]



[学生が運営する ex li · bris 「蔵書票」という名のカフェ。元リファレンスエリアを改装、学期中は深夜までオープン]



[Collaborative learning center (共同学修エリア)]



[シカゴ大学構内：レーゲンスタイン図書館前]



[ホワイトボードにびっしりと書かれたメモ。近くに筆記具の自動販売機も]

コラボレイティブ・ラーニング・センター（共同学修エリア）は、周囲や仕切りの壁全面がホワイトボード状になっていた。そのボードには、ディスカッションした際に書かれたであろう図、数式、文字などが消されずにそのまま残っていた。

このほか、館内には学位論文などの提出手続きをする Dissertation Office も一室として設けられており、ここが大学院研究図書館^{xiv)}であることを想起させた。

シカゴ・スタイル^{xv)}で名を馳せる大学の図書館は、利用者の学修や研究意欲を刺激させるような、印象に残る場所であった。

xiv) Graduate research library (大川政三著、「シカゴ大学レーゲンスタイン図書館を訪ねて」より)
xv) シカゴ大学出版会による学術論文の書き方

終わりに

見学した北米大学図書館は、其々素晴らしいものであった。時代のニーズに合った最新機器・備品の設備、或いは建物、必要とするサポート体制の構築、図書館利用を促進させる戦略的計画、そして、サービス向上の為に資金調達(Fund raising)まで、その規模と、図書館を巡る社会的文化的背景には、終始圧倒されるものがあった。然しながら、同じリベラル・アーツのインフラ^{xvi)}として、ICを含む図書館の在り方や方向性は見えてきたように思う。本研修で体験した米国図書館の先進的な取り組みを積極的に広報しつつ、得たアイデアを取り込む方法を考えていきたいと思った次第である。



[Social event にて]

xvi) 図書館のこと。絹川正吉編著、2002、『ICU<リベラル・アーツ>のすべて』、東信堂 より

謝辞

私立大学図書館協会、国際図書館協力委員会様には、昨年に引続き海外認定研修(B)の認定を頂き、貴重な体験を報告書として纏める機会を頂いた。研修ツアーを企画・協力・実施した図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社、株式会社 IWA ツアーの皆様、そして、種々サポートを頂いた国際基督教大学図書館の皆様方に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

参考・資料

研修名：ALA・米国図書館研修 2017

ーニューヨーク・シカゴ 8 日間

テーマ：アメリカの大学・公共図書館の最新事情を探る

日程・訪問先：

- 6月19日 メトロポリタン美術館
ニューヨーク近代美術館
- 6月20日 ラトガース大学図書館
グロリアクラブ
- 6月21日 コロンビア大学図書館
科学産業ビジネス図書館
ニューヨーク公共図書館
- 6月22日 シカゴ公共図書館
チャイナタウン分館
- 6月23日 ロヨラ大学 IC
シカゴ大学図書館
- 6月24日 ALA 総会
- 6月25日 午前中自由視察、午後帰国へ
- 6月26日 帰国

大学・図書館関係

◇Rutgers/The State University of New Jersey：ラトガース大学（州立）

設立：1766年 学生数：約 44000人（学部）、約 15000人（院）所蔵数：400万点以上、図書館：13館 ライブラリアン 16名
・元女子大学、終戦後州立大学に、2016年は創立 250周年。

◇Columbia University：コロンビア大学（私立）

設立：1754年 学生数：約 9000人（学部）、約 23000人（院）所蔵数：約 1344万点
職員数：約 3800名、図書館：20館以上
図書館スタッフ：各分野の専門家約 40名
・コロンビア大学は、2021までに図書館 4館の閉館を予定している。

◇Loyola University Chicago：ロヨラ大学（私立）

設立：1870年 学生数：約 16000人（学部）、約 23000人（院）図書館：3館

・[RICHARD J. KLARCHEK IC 設備]

設立：2008年、
図書館員：5人のスーパーバイザーと 50人の学生アルバイト
パソコン 325台、館内貸出用ラップトップ：60台、Group study room：28室、プリント複合機：13台、電子教室：6室、Writing center、障害学生用支援技術室、自動販売機・カフェ他。3D printer（別置）

◇The University of Chicago：シカゴ大学（私立）

設立：1890年 学生数：約 6000人（学部）、約 10000人（院）所蔵数：1130万点

図書館：7館

以上、事前説明会配布資料、現地の説明及び配布資料より

各大学図書館ホームページ

コロンビア大学図書館 HP

<<http://library.columbia.edu/locations/butler.html>>

ロヨラ大学図書館 HP

<<http://libraries.luc.edu/>>

ラトガース大学図書館 HP

<<https://www.libraries.rutgers.edu/>>

シカゴ大学図書館 HP

<<https://www.lib.uchicago.edu/>>

以上の閲覧日 2017/07/03

※本稿では中央教育審議会答申に基づき、「学習」を「学修」とした。